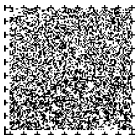


タイヤが鳴き、衝突音が響く コート上の格闘技の魅力

2003年に発足した車椅子バスケットボールチーム「薩摩ぼっけもん」。チームの始動は、熊本の「湯の児チエスターズ」でプレーしていた渡辺育雄さんと、田中昌昭さんが地元鹿児島でのチーム作りを目指したことがきっかけです。2004年には九州車椅子バスケットボール連盟に加盟。コート上の格闘技とも呼ばれる激しいプレーの応酬に臆することなく、生まれ持った薩摩魂を胸に数々の熱戦を繰り広げてきました。

車椅子バスケットボール（通称イスバス）とは、1940年代にアメリカで考案されたスポーツ。ターンやゴー&ストップも軽やかで、車椅子の片輪を浮かせて高さを出すティルティングや、コンビプレーによる車椅子ならではのダイナミックな攻守の切り替えなど、

通常のバスケットボール



車椅子バスケットボールチーム 薩摩ぼっけもん



練習前に円陣を組んで気合を注入するメンバー



体験指導を機に練習に通り始めた谷口拓磨くん（小4）



タイヤの音がキュッと鳴り、車椅子の衝突音が響く激しいスポーツ



上半身のバネと筋肉を使って華麗にワンハンドシュートを決める

ルとは一味違うスピードで迫力ある試合展開が魅力です。一度にコート上でプレーできる選手には持ち点制による制限が設けられ、障害や運動能力の差に関わらず、健常者を含めて誰もが一緒にプレーできることが特徴です。

誰もが一緒にプレーできる 車椅子バスケットボール

チームの練習は週に2〜3回。メンバーは専用の車椅子に乗り換えて、コート内を自在に駆け回ります。チームの中心メンバーで、九州車椅子バスケットボール連盟の副会長を務める上村英俊さんは「転倒や衝突による怪我也絶えませんが、見ているだけでも楽しいし、やってみるともっと楽しさが感じられるスポーツです」と話します。エキシビションマッチへの出場や小学生を対象にした体験指導も積極的に行い、障害者と健常者の垣根を越えてスポーツマンシップの本質を伝える「薩摩ぼっけもん」のメンバーたち。

八の字型のタイヤを必死に漕いでボールを追いかけ、大きな声でメンバーを鼓舞し、ハイタッチを交わして健闘を讃え合う姿が、今日もコート上で繰り広げられています。

車椅子バスケットボールチーム
薩摩ぼっけもん
<http://profile.ameba.jp/satsumabokkemon/>

